

「奨学金」は「借金」

アルバイト増やす学生

大学生協連が生活実態調査

「アルバイト収入は増え、奨学金は減少傾向」「6割以上が政治への関心がある」。全国大学生協同組合連合会は24日、学生の収入・支出や政治への意識、スマホ時間など学生生活実態調査の結果を発表しました。30大学で回収した9741人の平均値です。調査実施期間は、2015年10〜11月。



学生生活実態調査の結果を発表する全国大学生協連の毎田専務理事（右から3人目）ら＝24日、東京都杉並区

政治に関心6割超

自宅生の収入合計は6万2190円。前年比1070円増で、3年連続前年増になりました。アルバイト収入が前年比1590円増の一方、奨学金はマイナス270円で、前年に続き減少しました。下宿生の生活費に占める奨学金の割合は、2010年から毎年減少しています。仕送りがゼロの学生は9・1%を占めました。全国大学生協連の毎田伸一専務理事は学生の収入構造について「人手不足で学生アルバイトの単価が上がっていることがバイト収入増の背景にある。奨学金は『借金』という

認識が学生間に広がっている」と分析します。政治への関心については13年に初めて調査し、今回は2回目。64・5%が関心あると回答し、13年より2・9%増えました。

今夏の参院選で投票に行くとの回答は71・1%でしたが、下宿生（64・7%）は自宅生（78・5%）より13・8%低い結果でした。毎田氏は、「行きたくても行けない」と回答する下宿生が自宅生より多いと指摘。住民票を移すことへの啓発活動などをすすめたいと述べました。同調査は1963年から始まり、今回は51回目。